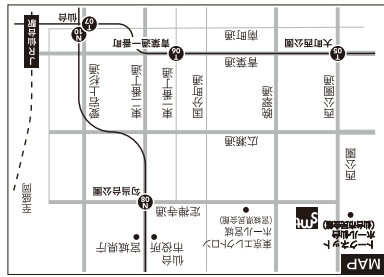


仙台・宮城フィルムコミッションでは撮影の際に協力いただけるエキストラボランティア及びロケ候補地を募集しております!!詳しくはHPをご覧ください。

仙台・宮城フィルムコミッション  
 E-mail info@sendaimiyagi-fc.jp URL https://www.sendaimiyagi-fc.jp/  
 TEL.022-22-393-8416 FAX.022-22-268-6252  
 (公益財団法人 仙台観光国際協会内)  
 〒980-0811 仙台市青葉区一番町3-3・20 東日本不動産仙台一番町ビル6階

www.sendaimiyagi-fc.jp



仙台短編映画祭実行委員会  
 〒980-0821 仙台市青葉区春日町2-1  
 仙台メディアテーク  
 企画・活動支援室内  
 E-mail: info@shortpiece.com  
 Tel: 090-2966-9490 (19:00-21:00)  
 仙台短編映画祭ウェブサイト  
 http://www.shortpiece.com

当日ボランティアスタッフ募集! info@shortpiece.comまでお問い合わせください

**チケット購入方法**

前売券の販売は  
 ごまいせんが  
 メールにて  
 info@shortpiece.com メール受付後、  
 ※数量限定  
 当日受付にてお支払い、チケット引換となります。

件名 2月日(●) (プログラム名) 予約希望  
 本文 URLネーム 人数 電話番号 を記載し、  
 info@shortpiece.com メール受付後、  
 事前予約の承りは1/20(水)20:00~各日前日18時までとさせていただきます。  
 申込でいただいた個人情報はその連絡にのみ使います。

各日チケット 各日1時より、7:50まで受付にて販売

入場料 **1000円**

- 高校生以下800円
- 豊齢カード、障害者手帳をお持ちの方と付添の方1名まで800円

各プログラム 開場は上映の30分前 64席 全席自由 入替制

席の場合は、入場をお断りすることがございます。ご了承ください。  
 理由の如何を問わず、チケットの再発行には対応しかねます。お気を付けてください。

**新型コロナウイルス感染症対策について**

- 館内では感染防止に取り組みます。●来館時はマスクの着用
- 手指の消毒、咳エチケットなど対策をお願いします。●席の間隔空けてご座席いただきます。●やむを得ず、中止となる場合があります。●最新情報は、ウェブサイト等でご確認いただき、お問い合わせください。

# 仙台 短篇 映画 祭 2020

ショート  
 ピース!



2021.2/14日・20日・21日 せんだいメディアテーク7階 スタジオシアター

主催 仙台短編映画祭実行委員会 共催 せんだいメディアテーク(公益財団法人 仙台市市民文化事業団)

後援 河北新報社 | 朝日新聞仙台総局 | 読売新聞東北総局 | 毎日新聞仙台支局 | 産経新聞社東北総局 | 日本経済新聞社仙台支局 | 仙台リビング新聞社 | NHK 仙台放送局

協賛 仙台放送 | tbc東北放送 | エフエフエフ | K-B東日本放送 | 仙台市教育委員会 | 仙台商工会議所 | J:COM仙台キャベツ | S-style | エフエフエフ | ラジオ3FM76.2

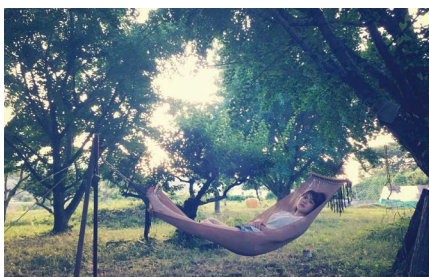
助成 芸術文化振興基金 | 公益財団法人カメイ社会教育振興財団(仙台市)

小さくても熱い光を灯して、映画をつなげるプレ上映を開催します。

2/14 日

14:00 - すずしい木陰でのんびり

すずしい木陰



2019年/日本/96分

監督・脚本・編集:守屋文雄  
出演:柳英里紗  
プロデューサー:関友彦

もうすぐ30歳になるという中古車屋の娘は、家でゴロゴロ、昼過ぎに起きて、雨ざらしのハンモックにぼよんと寝転がり、起きても眠るでもなく…物語らしいことは何も起きない。ただ女の子が寝ているだけの映画にもかかわらず、確かに何かが起きている。「見つめる」行為の向こうに立ち現れる「何か」それを楽しみながら見つけて欲しい。

柳英里紗

1990年生まれ、神奈川県出身。幼少期からCM、ドラマ、雑誌など様々な媒体で活躍。2000年に犬童一心監督「金髪の草原」にて映画初出演。その他の主な出演作として、山下敦弘監督「天然コケッコー」(07)、中野量太監督「チヂミ掘りに」(13)、常永昌敬監督「ローリング」(15)、huluオリジナル連続ドラマ「代償」(16)、メーテレドラマ「岐阜にイシュー」(17)など、多くの映画やドラマに出演している。2020年公開作に守屋文雄監督「すずしい木陰」、早川大介監督「風の子」、荒木伸二監督「人数の町」などがある。また、近年では女優としてだけでなく、監督として短編映画やミュージックビデオなども手掛けている。「VERY FANCY」(18)、「Cosmic Blue」(19)、平川地一丁目MV「マルーン色の電車」(此処に在るもの)、最新作「世田谷の優ちゃん」(20)など。

guest talk

守屋文雄



1976年宮城県出身。監督、脚本、出演と幅広く活躍。監督作に「まんが島」「すずしい木陰」。脚本家として「キツツキと雨」「夫がツチノコに殺されました」などがある。「恋の豚」の出演で第31回ビコン大賞・男優賞を受賞。

2/20 土

12:30 - MOOSIC LAB 新作プレビュー

灯をともし



2020年/日本/17分  
監督:根岸里紗  
脚本:田口敬太  
音楽:Sky Mata  
出演:五味未知子、ミネオシヨウ

閉鎖的都市空間でたまたま居合わせた男女が過ごした1日と少し。日常と非日常の境目、近づくほど遠ざかる名前のつかない二人の時間。

彼女来來



©「彼女来來」製作委員会

2021年/日本/88分(予定)

監督・脚本・編集:山西竜矢  
出演:前原滉、天野はな、奈緒 ほか 音楽:rei miyamoto / Vampillia  
一ある日、彼女が別人になった一 都内郊外のキャスティング会社で働く佐田紀夫は、交際三年目の恋人・茉莉と穏やかな毎日を送っていた。ある夏の日。紀夫が家に帰ると、窓から強い夕陽が差し込んでいた。焦げるようなその日差しを目にした瞬間、紀夫は奇妙な感覚に襲われる。気付くところには茉莉の姿は無く、代わりに見知らぬ若い女がいた。透き通るような白い肌のその女は「マリ」と名乗り—

guest talk

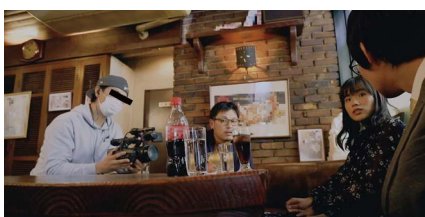
山西竜矢



脚本家、演出家、映像監督。1989年香川県生まれ。同志社大学卒。脚本・演出について独学で学び、演劇ユニット「ピンク・リパティ」を16年に旗揚げ。翌17年から映像制作も開始し、短編映画「さよならみどり」が第6回クォーターズコンテストでグランプリを受賞。20年には執筆したエッセイが日本文藝家協会「ベスト・エッセイ2020」に選出されるなど、ジャンルレスに活動の場を広げる。

16:00 - 齊藤工×コンプライアンス

COMPLY+-ANCE



©EAST FACTORY INC.

2020年/日本/75分

企画・原案・脚本・制作・撮影・写真・声・監督・総監督:齊藤工  
監督:若切一空、飯塚貴士、齊藤工、Chim士Pom 音楽:狐火、GARI  
出演:斎藤工、秋山ゆずき、平子祐香(アルコ&ピース) 他

俳優、フィルムメーカー、モノクロ写真家としてマルチに活動する斎藤工が「齊藤工」名義で総監督を務め、「コンプライアンス」をテーマに音楽、実写、人形アニメーションなど多様な視点と表現が放たれた、近い未来の放送業界・映画界に警鐘を鳴らす問題作。圧倒的な濃度の「体験型映画」!

video message

齊藤工



1981年、東京生まれ。初監督短編「サクライロ」以降、10年にわたり積極的に映像制作に携わる。初長編監督作「Blank 13」(2018年)が国内外の映画祭でB冠受賞。日本代表監督として参加したHBO asia 映画祭「FOODLORE」[Life in a Box] (20年)にてアジアン・アカデミー・クリエイティブ・アワード2020 最優秀監督賞を日本人初受賞ほか、多数受賞。また移動映画館「Cinéma bird」の主幹、リモート映画プロジェクト「TOKYO TELEWORK FILM」や俳優主導のミニシアター支援活動「Mini Theater Park」の始動などマルチに活動。竹中直人、山田孝之との共同監督作品「ソツキ」、主演作「シン・ウルトラマン」(企画・脚本:庵野秀明、監督:樋口真嗣)ほか公開予定。

2/21 日

13:00 - 震災を考える①

かけを拾う



© Komori Haruka

2020年/日本/73分

撮影・編集:小森はるか 録音:福原悠介 製作:せんだいメディアテーク  
仙台在住の美術作家・青野文昭さんの制作風景を追ったドキュメンタリー。せんだいメディアテークでの個展にむけて青野さんが取り組んでいた、仙台市八木山と岩手県宮古市を舞台とした新作制作の中で、「拾う」「なす」行為にカメラを向けた。「青野文昭のもの、ねむり、越路山、こえ」の関連企画として本作を上映。

guest talk

小森はるか



1989年静岡県生まれ。映像作家。映画美術学校12期ファッション初等科修了。東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了。2011年に、ボランティアとして東北沿岸地域を訪れたことをきっかけに、画家で作家の瀬尾夏美と共にアートユニット「小森はるか+瀬尾夏美」での活動を開始。翌2012年、岩手県陸前高田市に拠点を移し、人々の語り、暮らし、風景の記録をテーマに制作を続ける。2015年、仙台に拠点を移し、東北で活動する仲間とともに記録を受け渡すための表現をつくる組織「一般社団法人NOOK」を設立。長編ドキュメンタリー映画「息の跡」(2016年)、「空に聞く」(2018年)が劇場公開される。

16:00 - 震災を考える②

かえりみち

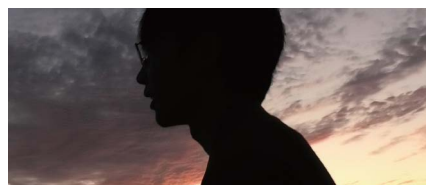


2017年/日本/48分

監督・撮影・編集:大浦美蘭  
音楽:合田口洸 (LOW HIGH WHO? PRODUCTION)  
出演:大浦仁、大浦久美子

当時大学生だった大浦美蘭が、東日本大震災後の自身の家族を記録したドキュメンタリー。福島第一原発事故によって故郷の浪江町に住むことのできなくなった大浦家。帰る家を持った長女・美蘭は、自分が「被災者」であることに違和感を抱き、自分や家族にカメラを向ける。繰り返す一時帰宅と、その度に変わっていく環境に、大浦家は揺らぐ。私たちの「かえりみち」はどこにあるのか…。家族はそれぞれの帰るべき場所を模索し続ける。

Afterimage



2019年/日本/30分

監督・撮影・編集:大浦美蘭  
音楽:HASAMI group 出演:街、建物、人

2019年、福島県浪江町に4人家族で住んでいた一軒家がある。震災以降、家主は帰らず、間も無く解体されることが決まっていた。この街では、時間の止まった建物たちが毎日姿を消していく。平成の終わりやオリンピックを目前に、変わり始めた街の景色とそこで生きる人々の様子を見つめる。インターネットを中心に活動するアーティスト・HASAMI groupの音楽とともに、フレームの外にある日常の残像を紡ぎ出すドキュメンタリー。

guest talk

大浦美蘭



1994年福島県生まれ。武蔵大学社会学部卒業。15歳の頃からドキュメンタリー制作を始める。大学の卒業制作「かえりみち」がびあフィルムフェスティバル2017入選、山形国際ドキュメンタリー映画祭2017日本プログラム選出、TAMA NEW WAVE ある視点部門入選。2019年に制作した「Afterimage」はMOOSIC LAB 2019 短編部門にて審査員特別賞を受賞した。

注意事項

各プログラムの開場は  
上映時間の30分前からになります。

入場の際はコロナ対策に  
ご協力をお願いします。

会場内は飲食禁止です。

映画の上映中もマスクの着用を  
お願いします。

プログラムの内容やゲスト、スケジュールの  
変更がある場合がございます。  
あらかじめご了承ください。

最新情報はこちらでチェック!

HP



Twitter



こんな時だからこそなおよさら映画を届けたい気持ちがい止まらない。秋から冬へ、二〇二〇年度の仙台短篇映画祭は